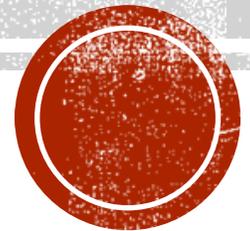


「女子トーク」は何でできている？

—外国人スタッフと日本人スタッフがともに働く「場」において  
生まれる意味—

大平幸



# 私が見てきた「場」



チャリティショップF  
(NPO法人)



ジエーンさん  
フィリピン出身  
日本人と結婚し、  
2011年来日



インターン研修  
①2017年3月  
②2018年8・9月



# 女子トーク

「女子トーク」を成り立たせるものは何



「女子トーク」  
メンバー同士が、同じコミュニティに属しているという認識を醸成するやりとり。

× 「女性」が好むとされる内容や話題についてのやりとり



# ジェーンさんのことば

まりちゃん（娘）を  
中心とした意味世界

いきなり「まりちゃん」

「小麦粉」はわからない  
「痰」はわかる

「咳」は「コンコン」



## NPO法人F 共有された意味や価値 「服を生かす」

どうやって残った品物をお金に換えて運営費や支援金にするか、  
全員で考えることができる人だけでチャリティー・ショップをやっている。  
これに加え、それぞれの職員が女性と子どもの支援、障がい者支援、東  
北支援などの役割分担をしている。「服を生かす」のが基本の仕事なので、  
それができる人がチームに参加している。セールスのスペシャリストも必  
要だが、現在は全ての仕事ができる人とやっている。

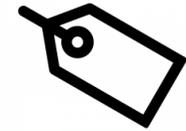
2016.2.15 インタビュー NPO法人F 理事長

F独自の意味や価値の存在



# チャリティショップF における服の価値

(例)



15000円



500 g



2000円

市場価格

- 寄付品としての価値
- 仕入れとしての価値

商品としての価値



## 服の意味や価値

- 計量、記録簿への記載、値付けといった活動、人と人とやりとりの中で立ち上がる
- 服のおかれた「場」によって異なるかたちで現れる

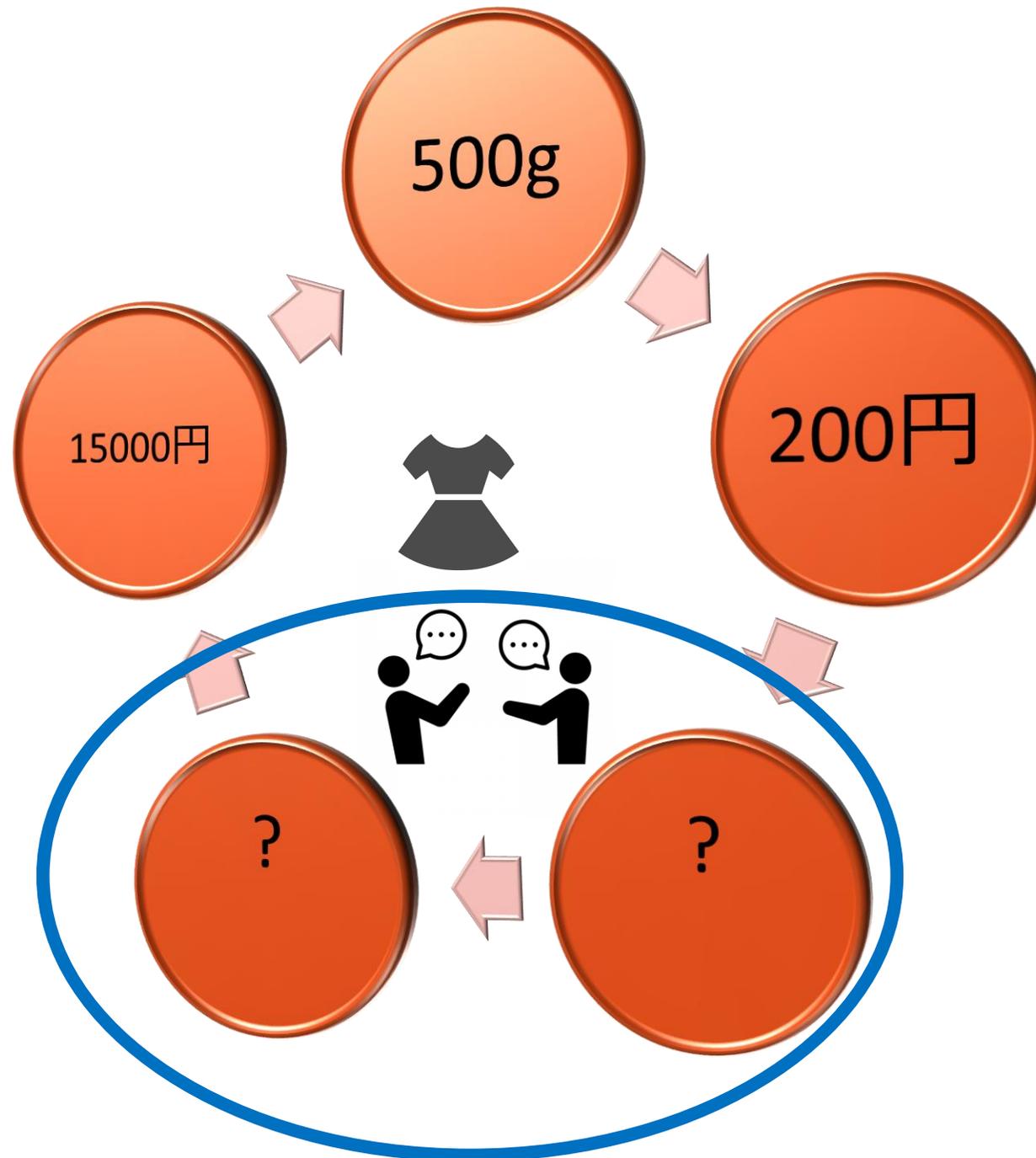




「女子トーク」を成り立たせるものは何？



# 服をめぐるやりとり



# 注目したところ

- 仕事上のやりとり（服の置き場所の説明）  
服の意味や価値が現れるやりとりに注目。
- 服の意味や価値が現れるやりとりの中で、それぞれの持ち寄る個人のことばが出会い、新たな意味が生まれていく様子
- 「女子トーク（メンバー同士が同じコミュニティに属しているという認識を醸成するやりとり）」がどのようにして成立しているか



# 「かわいい」服をめぐるやりとり



寄付品・商品



かわいい子供服



ジェーンさんの娘さん  
に似合う子供服

# 仕事の説明の中の「かわいい」



H 浜田さん J ジェーンさん

H:あとは子供服は100円で売ってます。

はい.あと500円もあるけどかわいいよね

これ500円だ. 500円と300円とあと

100円がほとんど

青いピンは全部100円. 子供用は,うん,

かわいいよね

J: かわいい

H: 娘さんに.娘?

J: 娘. こっちも.かわいい

H: かわいいでしょ.ふふふ.全部寄付なので.

うん

J: 何

H: ねえ かわいいよね

J: かわいい.まりちゃんとドレス, 大好き

H: だれ?りかちゃん?

J: まり

H: だれ? 娘さん?

J: うん

H: まりちゃんっていうの? フフフ

J: 大好きはドレス

H:ドレス, ははは ドレス好きね. たぶん

みんな. へえ.こんなんもかわいい.大きくなったら

J: うん



## ❖「かわいい」の個人的意味

置かれた文脈によって、「かわいい」の意味が変化していく。

二人のやりとりの中で、「かわいい」ということは、服の価値の個人的な意味が立ち上がる。

## ❖立場の変化

共通の価値観を持った者

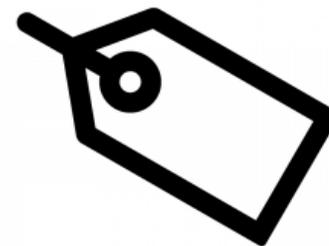
かわいい  
かわいい  
かわいい

個人的な意味が  
立ち上がる



「女子トーク」になっていく





服、計り、値札、ディスプレイ、店員、それらがばらばらに存在するだけでは、「場」とは言えない。



Q 「場」とは？

「場」を成り立たせるものとは？



## 参考文献

- 大平幸・掛橋智佳子・佐野真弓・森本郁代(2018)「メンバー間における課題共有のための職場のCan-do statements—3つの職場の人々との対話を通して見えてきたこと—」
- 尾辻恵美(2016)「メトロリンガリズムとアイデンティティ」『ことばと社会』18, 11-34
- 嶋津・大平・八木(2020)「場の考察から捉える日本語教育—活動と参加者と場の相互作用—」『ヨーロッパ日本語教育』第23回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム論文集
- 三代純平(2015)．日本語教育という場をデザインする—教師の役割としての実践の共有『言語文化教育研究』13, 27-49.

